

朝鮮産多足類の概観

高桑良興・高島春雄

(東京文理科大学動物学教室)

Takakuwa, Y. & Takashima, H. — Chilopods and Diplopods
known from Korea

§ 朝鮮産蜈蚣類瞥見

今日まで知られる朝鮮の唇脚類即ち蜈蚣の仲間は次掲の29種である。蜈蚣相全貌の達観には尙相當の時日を要すべきも、少くも朝鮮半島に普通に見られる蜈蚣は出揃つたものと考へて宜いであらう。*を附したのは現在に於て朝鮮固有と看做さるべき種或は變種である。

ヂムカデ目 Geophilomorpha

- 1 **Brachygeophilus koreanus* Takakuwa, 1936 コマスミヂムカデ
- 2 **Escaryus jacoti* Verhoeff, 1934 ヤコットエスカリヂムカデ
- 3 **E. koreanus* Takakuwa, 1937 テウセンエスカリヂムカデ
- 4 *Nesogeophilus littoralis* Takakuwa, 1934 イソシマヂムカデ
- 5 **Nodocephalus doii* Takakuwa, 1940 ドキニブツヂムカデ
- 6 *Pachymerium ferrugineum* (C. L. Koch, 1835) フタマドヂムカデ
- 7 **Pleurogeophilus aporus* Takakuwa, 1936 コマヨコヂムカデ
- 8 *Prolamnonyx holstii* (Pocock, 1895) ツメヂムカデ (ホルストヂムカデ)
- 9 *Scolioplanes hirsutipes* Attems, 1927 ナガケスコリヂムカデ
- 10 *S. maritimus japonicus* Verhoeff, 1935 ヤマトスコリヂムカデ

ψ *Trachycormocephalus koreanus* Verhoeff, 1934 は本種の synonym なりと考へる。

- 11 *Stigmatogaster japonica* Takakuwa, 1935 ヨシヤデムカデ

オホムカデ目 Scolopendromorpha

- 12 *Cryptops japonicus* Takakuwa, 1936 ニホンメナシムカデ

- 13 **Otocryptops capillipedatus* Takakuwa, 1938 ケアシアカムカデ

- 14 *O. rubiginosus* (L. Kach, 1878) セスヂアカムカデ

- 15 *O. sexspinosus* (Say, 1821) アカムカデ

- 16 *Scolopendra subspinipes mutilans* L. Koch, 1878 トビヅムカデ

- 17 *Otostigmus politus* Karsch, 1881 ♀ テウセンムカデ

イシムカデ目 Lithobiomorpha

- 18 *Bothriopolys asperatus* (L. Kach, 1878) イッスンムカデ

- 19 *B. imaharensis* Verhoeff, 1937 イマイッスンムカデ

- 20 *B. richthofeni* Verhoeff, 1938 コマイッスンムカデ

- 21 *B. yoshidai* Takakuwa, 1939 ヨシイッスンムカデ

- 22 *Esastigmatobius longicornis* Takakuwa, 1939 オホゲジムカデ

- 23 *Lithobius bicolor* Takakuwa, 1939 ブチイシムカデ (高桑新稱)

- 24 **L. ellipticus* Takakuwa, 1939 アナナガイシムカデ (同上)

- 25 **L. haku* Takakuwa, 1939 ハクイシムカデ (同上)

- 26 **L. koreanus* Verhoeff, 1938 コマイシムカデ (同上)

- 27 *L. mandschreiensis* Takakuwa, 1939 マンシウイシムカデ (同上)

ゲジ目 Scutigeromorpha

- 28 *Thereuonema hilgendorfi* var. *koreana* Verhoeff, 1936 テウセンゲジ (同上)

- 29 *T. tuberculata* (Wood, 1863) ゲジ

臺琉九四本北千樺朝滿

Himantariidae

海
灣球州國州道島太鮮洲

- 1 *Stigmatogaster japonica* + × +

Schendylidae

臺 琉 九 四 本 北 千 樺 朝 滿
 灣 球 州 國 州 道 島 太 鮮 洲

2 *Escaryus jacoti* × ...

3 *E. koreanus* × ...

Mecistocephalidae

4 *Nodocephalus doii* × ...

5 *Prolamnonyx holstii* + ... + + + + ... × +

Geophilidae

6 *Brachygeophilus koreanus* × ...

7 *Pleurogeophilus aporus* × ...

8 *Nesogeophilus littoralis* + ... + ... × ...

9 *Scolioplanes hirsutipes* + + + + × ...

10 *S. maritimus japonicus* + + + + + ... × ...

11 *Pachymerium ferrugineum* + ... + + + ... × ...

Scolopendridae

12 *Scolopendra subspinipes mutilans* + + + + + ... ? × ...

13 *Olostigmus politus* × +

Cryptopidae

14 *Cryptops japonicus* + ... × +

15 *Otocryptops capillipedatus* × ...

16 *O. rubiginosus* + + + ? ... × ...

17 *O. sexspinosus* + + + ... × ...

Lithobiidae

18 *Esastigmatobius longicornis* + ... × ...

19 *Lithobius bicolor* + ... × ...

20 *L. ellipticus* × ...

Scutigeridae

28 *Thereuonema hilgendorfi* var. *koreana* × ...
 29 *T. tuberculata* + + + × ...

種 の 檢 索 表

1	{	體の側面に氣門が開いて居る	2
		體の背面に氣門が開いて居る	Scutigermorpha 28
2	{	歩肢が15對ある	Lithobiomorpha 19
		歩肢が21對以上ある	3
3	{	歩肢は21對亦は23對	Scolopendromorpha 14
		上記以上の多數の歩肢を有する	Geophilomorpha 4
4	{	大顎に齒葉を有し、尙其の上に	5
		大顎に齒葉を缺く	7
5	{	多くの櫛葉を有する	<i>Stigmatogaster japonica</i>
		櫛葉を有せぬ	6
6	{	第1小顎に觸鬚を有せぬ	<i>Escaryus jacoti</i>
		第1小顎に1對の觸鬚を有する	<i>E. koreanus</i>

- 7 { 大顎には多くの櫛葉を有する…………… 8
 { 大顎にはたゞ縁邊に毛を列生するのみ…………… 9
- 8 { 第2小顎の基節は左右互に癒合せぬ…………… *Prolamnonyx holstii*
 { 第2小顎の基節は左右互に癒合する…………… *Nodocephalus doii*
- 9 { 額板上に2個の小さい窓状の區域があり、頭板の側縁と、顎枝節の
 { 側板と基節との境界線とが互に並行し、上面から見れば顎枝の大部
 { 分が頭板外に現れて居る…………… *Pachymerium ferrugineum*
 { 額板に上記の區域が無く、上述の境界線は頭板の側縁と並行して居
 { らず、上面から見れば顎枝の1小部分が現れて居るに過ぎぬ…………… 10
- 10 { 頭に續く體の前部は餘り細くない。頭板の横幅は體の中央部の體節
 { と略同幅である。上唇縁に生ずる齒は後方に向いて居る…………… 11
 { 頭に續く體の前部は非常に細く、頭板も亦甚だ小さく、上唇中央片
 { の齒は皆前方へ向いて居る…………… 12
- 11 { 最終歩肢節基節腺孔は各別に基節面に開いて居る…………… 13
 { 最終歩肢節基節腺孔は其の節の胸板に接する1小凹陷内に集まつて
 { 居る。腹面腺孔は多く各胸板の面に横帶狀を成して群集する……………
 { ……………… *Nesogeophilus littoralis*
- 12 { 歩肢の毛は少く、細く短い…………… *Scolioplanes maritimus japonicus*
 { 歩肢の毛は多く、硬く長い…………… *S. hirsutipes*
- 13 { 上唇中央片には多くの齒を列し、側片は甚だしく大きくはない。顎
 { 枝節を成す各節に齒狀突起を有せぬ…………… *Brachygeophilus koreanus*
 { 上唇中央片には太い刺毛狀の突起を列し、側片は甚だしく大きい……………
 { ……………… *Pleurogeophilus aporus*
- 14(3) { 眼は頭の各側に4個ある。歩肢は21對…………… 15
 { 眼は全く無い…………… 16

- 15 { 氣門は 3 裂した瓣扉によつて前庭と内蓋とに分たれる
 *Scolopendra subspinipes mutilans*
 氣門は上記のことなく簡單である *Otostigmus polites*
- 16 { 歩肢は 21 對. 最終歩肢は死後痙攣的に屈曲する
 *Cryptops japonicus*
 歩肢は 23 對. 最終歩肢は上の如く屈曲せぬ 17
- 17 { 最終歩肢は其の腿節以下に密毛を生ずる
 *Otocryptops capillipedatus*
 最終歩肢に密毛を生ずることはない 18
- 18 { 多くの背板に 2 條の略並行せる縦細溝線を有する
 *O. rubiginosus*
 上の如き縦細溝線を有せぬ *O. sexspinosus*
- 19(2) { 各歩肢の跗節は 3 個以上に分れて居らぬ
 各歩肢の跗節は多數の小節に分れて居る
 *Esastigmatobius longicornis*
- 20 { 最後の 4 對の歩肢の基節に不規則に並ぶ多くの基節腺孔を開いて居
 る 21
 最後の 4 對の歩肢の基節に 1 列に並ぶ腺孔を有する 24
- 21 { 第 6, 7 背板の後外角に突起を缺くか又は僅かにそれを存し第 9, 11,
 13 背板には著しい突起がある. 副棘 (paradont) は顎肢前縁の最外方
 の齒の後又は其の少し外方にある *Bothropolys imaharensis*
 第 6, 7, 9, 11, 13 背板の後外角に三角形の突起を具へる 22
- 22 { 副棘は最外方の齒よりも外方にある *B. asperatus*
 副棘は齒と齒との間にある 雌の生殖肢の棘は 3 + 3 (稀に 2 + 2,
 3 + 2) 23

- 23 { 全體褐の一色…………… *B. richthofeni*
 歩肢の腿節と脛節とは暗紅色 轉節と前腿節とは褐黃色、跗節は黃褐色 最終歩肢の各節は暗紅色であるが唯其の端のみ黃色を呈し、
 第13, 14歩肢も略最終歩肢に等しい色彩を示す…………… *B. yoshidai*
- 24 { 第9, 11, 13背板は後外角に三角形の突起を有する。第7背板には突起を缺如。雌の生殖肢の棘は2+2…………… *Lithobius hakui*
 總べての背板に突起を缺く…………… 25
- 25 { 第14, 15歩肢の腿節、跗節は黃褐色で他は暗赤色 觸角は18—20節より成る…………… *L. bicolor*
 上の如き色彩を呈せぬ…………… 26
- 26 { 第14歩肢の腿節の端に近く刺毛群がある…………… *L. koreanus*
 第14歩肢の腿節の端に近く刺毛群は無い…………… 27
- 27 { 顎肢前縁の齒は3+3。雌生殖肢の棘は3+3(稀に2+2)。基節腺孔は長橢圓形…………… *L. ellipticus*
 顎肢前縁の齒は2+2。雌生殖肢の棘は3+3(時としてはそれ以上)。觸角の小節は20—28。基節腺孔は圓形…………… *L. mandschreiensis*
- 28(1) { 第15背板の後縁は深く圓い直角狀に凹んで居る……………
 ……………… *Thereuonema hilgendorfi* var. *koreana*
 第15背板の後縁は凹まぬか又は淺く鈍角狀に凹んで居る……………
 ……………… *T. tuberculata*

§ 朝鮮産馬陸類研究史

Alfred Carpenter* が S. E. Corea で採集し British Museum に保存されて居た標品に基づき R. I. Pocock が1895年2種を報告したのが蓋し朝鮮産馬陸類研究史の第1頁であらう。即ち *Paraiulus coreanus* n. sp. 及び *Fontaria* sp.

* 江崎悌三博士に據れば氏は英國海軍士官で軍艦“Magpie”に便乗し明治15年(1882)來朝、奄美大島、館山灣、東京灣、對馬、朝鮮等を廻り各所で色々な動物を採集した。

であるが前者は同じ學者により1903年 *Mongoliulus* なる新屬として扱はれるに至り *Mongoliulus corcanus* の名の下に今日に及んで居る。此の *Mongol-* は蒙古でなくもつと廣義に用ひられたものであらう。亦 *Fontaria* sp. は “solitary female example” でどの種類に該當するか分明しない。朝鮮の馬陸相の知見は其の後永く此の儘に止まり新知識が加はらなかつた。それは C. G. Attems (1914) K. W. Verhoeff (1932) 等の力作が之を證して居る。即ち1936年頃までは朝鮮産馬陸を親しく調査した泰西の學者は Pocock 以外1人も無かつたであらう。1935年の7, 8月高桑は南滿, 關東州, 朝鮮に親しく多足類採集行脚を試み尙在鮮の動物熱心家に採集を依頼して入手し等して相當の標品を蒐めた。中にも1936年の夏現宮崎高等農林學校生徒白甲鏞氏は高桑の依頼で朝鮮各地に多足類を採集した。尙同年9月及び10月に夫々別コースを選び採集を繼續された。斯くして得たる標品の主なるものは高桑より獨逸の碩學 Verhoeff に送り其の殆ど總べてが新群として Zoologischer Anzeiger 誌上に逐次 (1936, 1937) 發表された。 *Sichotanus longipes* n. sp., *Nedyopus koreanus* n. sp., *Koreoaria pallida* n. g. et n. sp., *Epanerchodus koreanus* n. sp., *Fusiulus koreanus* n. sp. 等がそれである。亦1938年氏は Mit. Höhlen. Karstforsch. に *Antrokoreana gracilipes* n. g. et n. sp. を發表した。1936年夏岸田久吉氏は朝鮮各地に蟻採集旅行をせられ其の際多足類も多數採取せられたるならんも報告はなされて居ない。1937年及び1938年 Attems は Polydesmoidea に關する二大雄篇を公にしたが其の中に朝鮮産馬陸として *Nedyopus patrioticus koreanus*, *Sichotanus longipes*, *Koreoaria pallida* を載せ且つ初出のものの學名の組合せの變更を行つた。

斯くして他力本願時代より自力更生時代に入る。高島は滿洲國熱河省産馬陸類標品を検する機會に恵まれ査定報告 (1939) の際朝鮮馬陸相に關し附記し尙マンシウヤケヤスデ *Orthomorpha circofera affinis* Verhoeff は朝鮮の一部にも産することを報じた。高桑は永く朝鮮の馬陸に關し自身では發表しなかつたが1935年三浪津で白氏が採集の材料に基づき今年 *Skleroprotopus hakui* を記載し

た。本属は日本では土佐龍河洞及び伊豆大島から各1種が知られ朝鮮よりは從來未知であつた。更に曾て安州にて自身採集の *Skleroprotopus* に近縁のヒメヤスデを調査し *Ansiulus matunotoi* なる新属新種と看做し且つ此の属の爲 Paraiulidae 中に第4亞科 Ansiulinae を新設した。今回予等は所持の馬陸標品中に汎世界的なヤケヤスデ *Orthomorpha gracilis* (C. L. Koch) を見出したから之をも加へ概観すること下の如くである。*を附したのは現在に於て朝鮮固有と看做さるべき種或は亞種である。 *Koreocaria*, *Antrokoreana*, *Mongoliulus*, *Ansiulus* は朝鮮獨特の属でもある。 *Orthomorpha gracilis* は論外として *Orthomorpha circofera affinis* は滿洲及び朝鮮のみより知られ *Rhysodesmus* n. sp. も*の仲間入りをすべく現状としては殆ど總べてが朝鮮獨特の動物群となり奇異の觀を呈して居る。之は fauna の探究不十分の地方に見られる過渡期的現象で一に研究者や同好者が無くて採集が行届かない爲で列舉した種類の他に尙多數を産するものと思考される。在鮮同好の士の奮起協力を冀ふ次第である。

Polydesmidae オビヤスデ科

- 1 **Epanerchodus koreanus* Verhoeff, 1937 ユウキオビヤスデ (高島新稱)

Strongylosomatidae アカヤスデ科

- 2 **Nedyopus patrioticus koreanus* Verhoeff, 1936 シラギアカヤスデ (同上)
 3 *Orthomorpha* (*Kalorthomorpha*) *gracilis* (C. L. Koch, 1847) ヤケヤスデ
 4 *O. (K.) circofera affinis* Verhoeff, 1936 マンシウヤケヤスデ
 5 *O. (K.) circofera circofera* Verhoeff, 1931 タカクワヤケヤスデ
 (高島新稱)

- 6 **Sichotanus longipes* Verhoeff, 1936 マガヒアカヤスデ (同上)

Leptodesmidae ババヤスデ科

- 7 **Koreocaria pallida* Verhoeff, 1937 ヤサババヤスデ (同上)
 8 *Rhysodesmus* n. sp. ハンタウババヤスデ (同上)

Isobatidae イソバテスコ科

- 9 **Antrokoreana gracilipes* Verhoeff, 1938 タテウネホラスデ (同上)

Paraiulidae ホタルヤスデ科

- 10 **Mongoliulus coreanus* (Pocock, 1895) カウライホタルヤスデ
 11 **Skleroprotopus hakui* Takakuwa, 1940 ハクリュウガヤスデ (高島新稱)
 12 **Ansiulus matumo'oi* Takakuwa, 1940 アンシウヤスデ (同上)

Julidae ヒメヤスデ科

- 13 **Fusiulus koreanus koreanus* Verhoeff, 1937 ケイリンフジヤスデ (同上)
 村田懋麿氏の「鮮満動物通鑑」(1936)に據れば馬陸の朝鮮名は鉅 Ko 鉉 Hyon
 馬鉉 Ma-hyon 馬陸 Ma-lyuk 環蟲 Hoan-tchyung 百足蟲 Paik-chyok-tchyung
 香娘閤氏 Hyang-nang-kak-ssi 等で2月1日に堂宇を灑掃し紙を剪つて香娘閤
 氏速去千里の8字を書き之を楹上に貼る風習が今尙都鄙を通じて遺つて居ると
 いふ。馬陸は朝鮮の人々に嫌忌されて居るらしい。

§ 朝鮮産馬陸類一覽

1 胴節は20個

- 2 生殖肢間は割合廣いが之を廣い垣様物で繋ぐ。背板後半には平丘の横列
 がある。側底は左右に突出して居る……………
 …………… オビヤスデ科 *Epanerchodus koreanus*

2' 生殖肢は近く立ち間に垣が無く直接して居る

- 3 側底は長く高くて背板との間に溝を隔てゝ居る。生殖肢第2節は短く
 卵状、第3節は長大で細長い精管を有し末端絲状、第4節は短い……
 …………… アカヤスデ科

- 4 生殖肢腿節は基部近くから穹窿状に強く膨出する……………
 …………… *Nedyopus patrioticus koreanus*

- 4' 生殖肢腿節は前後同じ幅なるか或は基部より次第に細まる……………
 …………… *Orthomorpha*

- 5 生殖肢腿節は短直、脛節と跗節の境界は認め得られる……………

- *O. gracilis*
- 5' 生殖肢腿節は長く且つ繊細で強く彎曲する。脛節と跗節は癒着して界は明瞭でない
- 6 脛節の内側突出部に於て明瞭なる齒狀部を抽出せしめない.....
..... *O. circosera circosera*
- 6' 脛節の内側突出部に於て2個の明瞭なる齒狀部を抽出せしめる
..... *O. circosera affinis*
- 4'' 生殖肢腿節は後半膨れて棍棒狀となる 胸板は幅極めて廣い.....
..... *Sichotanus longipes*
- 3' 背板後半は良く發達して居る。生殖肢は發達良好であるが第2節以後は分界が無い。第1節には小角がある..... **ババヤスデ科**
- 4 生殖肢の前腿節は末端鋭尖して終る大なる突起がある。前腿節と腿節との間に中斷部は無い 體長35耗を超え強剛の感がある.....
..... *Rhysodesmus* n. sp.
- 4' 生殖肢の前腿節は單一の突起部を具へる。前腿節と腿節とは狹窄部があつて明かに互に分離される。體長21耗位で華奢.....
..... *Korcoaria pallida*
- 1' 胴節は40個以上で其の横斷は圓い
- 2 生殖肢は自在で、深い窪みには入つて居らぬ。陰莖は簡單
- 3 上顎に4〜5枚の櫛葉がある。各背板は其の正中線に畝狀の隆起を具へる。第1歩肢の形は略正常.....
..... **イソバテス科** *Antrokoreana gracilipes*
- 3' 上顎に7〜8枚の櫛葉がある。第1歩肢は大いに變形し非常に太い.....
..... **ホタルヤスデ科**
- 4 前生殖肢には鞭狀物を缺く..... *Mongoliulus coreanus*
- 4' 前生殖肢に鞭狀物を具へる

- 5 第7對歩肢は大いに變形して居る…… *Skleroprotopus hakui*
 5' 第7對歩肢は正常で歩肢の形態を保つ…… *Ansiulus matumotoi*
 2' 生殖肢は深い窪みに嵌入して居る。前生殖肢は1節きりであるが鞭狀物を具へる。陰莖は二岐して居る。第1歩肢は甚だ小形で鈎狀を成す……
 …………… **ヒメヤステ科** *Fusiulus korcanus koreanus*

Epanerchodus Attems (1901) **ヒナオヒヤステ属**

Polydesmus subgen. *Epanerchodus* Mt. Mus. Hamburg, vol. xviii, p. 102

- 1 *Epanerchodus koreanus* Verhoeff ユウキオヒヤステ (雄基帶馬陸)

Epanerchodus koreanus Verhoeff, 1937, Zool. Anz. vol. cxvii, nos. 11/12, p. 321, textfig. 11

模式産地は“Nordkorea, bei Yuki”即ち朝鮮咸鏡北道雄基で6. VIII. 1936 白甲鑑氏の採集に係る。目下のところ朝鮮特産種である。

Nedyopus Attems (1914) **アカヤステ属** (變更)

Arch. f. Naturgesch. vol. lxxx, A, no. 4, p. 200

- 2 *Nedyopus patrioticus koreanus* Verhoeff シラギアカヤステ (新羅褐馬陸)

Nedyopus koreanus Verhoeff, 1936, Zool. Anz. vol. cxv, nos. 11/12, p. 308, textfigs. 10—11

Nedyopus patrioticus koreanus, Attems, 1937, Tierreich, Lief. 68, p. 139

模式産地は“Korea”朝鮮慶尙北道で大邱 (27. VII. 1935) 及び慶州 (16. IX. 1935 白氏採) にて獲られた。目下のところ朝鮮固有の亞種である。

Orthomorpha Bollmann (1893) **ヤケヤステ属**

Bull. U. S. Nat. Mus. no. 46, p. 159

- 3 *Orthomorpha* (*Kalorthomorpha*) *gracilis* (C. L. Koch) ヤケヤステ (焦馬陸)

Fontaria gracilis C. L. Koch, 1847, Koch-Panzer, Krit. Revis. vol. iii, p. 142

Paradesmus gracilis, Tömösváry, 1879, Termész. Füzetek. vol. iii, p. 246

—— Latzel, 1884, Myr. d. öst.-ung. Mon. vol. ii, p. 162

Orthomorpha gracilis, Bollman, 1893, Bull. U. S. Nat. Mus. no. 46,

p. 197 —— Pocock, 1895, Ann. Mag. Nat. Hist. ser. 6, vol. xv,

no. 88, p. 354 —— Attems, 1909, Ark. f. Zool. vol. v, no. 3, p. 29

—— Kishida, 1928, Fuji no Dôbutsu (Fauna of Mt. Fuji) p. 436

Oxidus gracilis, O. F. Cook, 1911, Proc. U. S. Nat. Mus. vol. xl, no.

1842, p. 631

模式産地は Germany とある由なるも分布は汎世界的である。Pocock (1895) は Great Loo-Choo 即ち沖縄本島を挙げ Attems (1909) は Yokohama を挙げたが本邦各地に産すべきは明かである。従来朝鮮よりの記録は無かつたが高桑は京城 (28~29. VII. 1935) 及び平安南道安州 (VIII. 1935) に於て採集し其の生棲を確かめた。1936年7月より8月にかけて高桑は北海道、樺太に多足類採集行脚を試みたが樺太で獲た馬陸ま僅かに本種の他に2種程で個體數も少かつた。樺太よりは未記録であるから此の機会に本種の棲息を報ずる。尙高桑は臺灣産の標品を所持するが臺灣も従来未記録であつた。

5 *Orthomorpha (Kalorthomorpha) circofera affinis* Verhoeff

マンシウヤケヤスデ (滿洲焦馬陸)

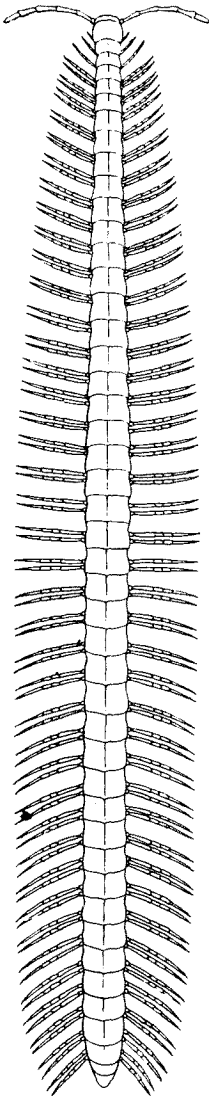
Orthomorpha circofera affinis Verhoeff, 1936, Trans. Sapporo Nat.

Hist. Soc. vol. xiv, pt. 3, p. 161, Pl. III, fig. 13 —— Takashima,

1939, Rept. 1st Sci. Exped. Manchoukuo, sec. V, div. I, pt. XIV,

art. 78, p. 3, texfigs. 1—3, Pl. I

原記載には Vorkommen : Mandschurei とある。此の標品は1935年夏高桑が採集して Verhoeff に送附したもので “Mandschurei” の内容は多分奉天かと想ふ。高桑は大連、旅順でも採集した (未發表)。1933年夏岸田久吉氏は熱河省内双塔山、興隆、承德、柴河口等で多數を採取せられた。1935年7月30~31



タテウネホラヤスデ ×4.6

日朝鮮平安南道平壤で、同年8月平安南道安州で高桑は多数採取した（後者は未発表）。目下のところ鮮満地方にのみ見られる亜種である。全形圖は高島(1939)により發表されて居るから今回は掲げない。

6 *Orthomorpha* (*Kalorthomorpha*) *circofera*

circofera Verhoeff タカクワケヤスデ（高桑焦馬陸）

Orthomorpha circofera Verhoeff, 1931 Zool.

Jahrb. Abt. f. Syst. vol. lxi, no. 4, p.

448, Pl. VIII, figs. 58—60

原記載 p. 449 には “Ein Pärchen dieser Art aus der Umgebung von Tokyo” とある。此の標品は高桑が提供したのであるが東京近傍産でなく朝鮮黃海道黃州産（採集者は元洪九氏であつたかと想ふ）であつたと思ふ。どうして Verhoeff が之を東京近傍産としたか其の間の事情は判然しない。朝鮮産としてこそ Verhoeff が北京産 *O. (K.) pekuensis* (Karsch, 1881) と近縁なりと看做した所以も了解される。現在高桑の手許にあるのは1930年黃州で採集された2♀のみで共に歩肢等に切損ある不完全標品である。體長は大なる方で29耗位、體幅3.5耗位。頭と胴背は汚褐色で光澤に乏しく背板側底は汚黄色で背板との對照目覺ましくない。第20背板の尾先は側底と同色。胴腹は淡褐色。歩脚は淡黄色。楮斯かる色彩は滿洲産の型的の個體（高島が既に記載せる通りの）に較べると一見區別明瞭の如くであるが、此の仲間

は個體により淡色のものがあり色彩の相違は殆ど問題にならぬのである。2頭共♀で肝腎の生殖肢につき満洲産と比較し得ないのは残念である。*affinis*は原記載に“bedeutend weniger gerunzelte Metatergite, weshalb dieselben nicht matt sondern etwas glänzend erscheinen”とある其の“gerunzelte”はVerhoeffは如何なる點を指示したのか不明であるが、背板後區に於て中央區劃線より上、側底の基端より斜内方に向ふ0.4耗程の溝(皺)あり、高島(1939)は之を指したものと考へた。*circofera*のラベルを附しある朝鮮産2頭には此の溝は認められぬ。生殖肢の差異も記載により比較する時は決して分明なものではない。亞種として區別する要ありやも問題であるが今暫く Verhoeff の説に準據し二者の併存を認める。尙 *circofera* が將來も東京近傍から見出されることは無いとは斷言出来ぬが Verhoeff の模式標品は朝鮮産であつたと信ずる。

Sichotanus Attems (1914) マガヒアカヤステ属

Arch. f. Naturgesch. vol. lxxx, A, no. 4, p. 216

7 *Sichotanus longipes* Verhoeff マガヒアカヤステ (擬褐馬陸)

Sichotanus longipes Verhoeff, 1936, Zool. Anz. vol. cxv, nos. 11/12, p. 306, textfigs, 7—9 & 16

模式産地は“Korea”である。朝鮮江原道洗浦白峰で 17. V. 1930 獲られたのであるが採集者の芳名を今想ひ出せない。目下のところ朝鮮特産種で北鮮に稀ならざるものであらう。本属は genotype たる Wladiwostok 産 *S. eurygaster* (Attems, 1898) の他に本種を包有するのみである。

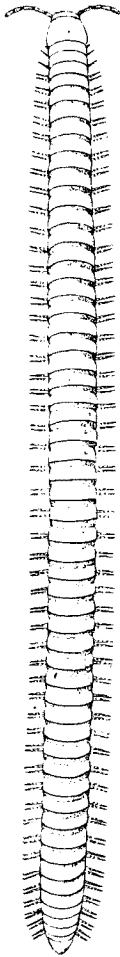
Koreoaria Verhoeff (1937) ヤサババヤステ属

Zool. Anz. vol. cxvii, nos. 11/12, p. 319

8 *Koreoaria pallida* Verhoeff ヤサババヤステ (優婆馬陸)

Koreoaria pallida Verhoeff, 1937, Zool. Anz. vol. cxvii, nos. 11/12, p. 319, textfig. 8

模式産地は“Südkorea”朝鮮慶尙北道佛國寺で標品は 17. IX. 1935 白甲鏽氏



アンシウヤステ ×4

の採集に係る。朝鮮より新屬新種として記載された。*Fontaria* sp.* は Pocock が大英博物館に所藏される Alfred Carpenter 採集 S. E. Corea 産標品に基き略報したもので “..... species are represented in the collection by solitary female example. I consequently refrain from describing them.” とあり其の何種なりやを定めるのは至難であるが本種に該当する個體であつたかとも考へられる。

Rhysodesmus Cook (1895) アマビコヤステ屬

Ann. N. York Ac. vol. ix, p. 5

9 *Rhysodesmus* n. sp. ハントウババヤステ (半島婆馬陸)

此の屬は Attems (1938) に據ると大體28種を包有し他に怪しいものが8種ある。大部分はメキシコに少數種はグ、テマラ及び “Inseln der chinesischen See” (之は琉球のこと) に産すとしてある。琉球と云つても沖縄本島で其處から知られる本屬の種類は *Rhysodesmus holstii* (Pocock, 1895) *R. neptunus* (Pocock, 1895) *R. variatus* (Pocock, 1895) である。之等は何れも當初 *Fontaria* として記載された。1936年 Verhoeff は沖縄本島産標品に基き *Riukiaria* なる新屬を設けられるに *Riukiaria pugionifera* (オキナハババヤステ genotype) *R. falcifera* (ウチハババヤステ) の2新種

を以てした。然るに Attems (1938) は *Riukiaria* は恐らく *Rhysodesmus* に

* *Fontaria* sp. Pocock, 1895, Ann. Mag. Nat. Hist. ser. 6, vol. xv, no. 88, p. 362

併合せしむべきであらうとして居る。後に Verhoeff は Pocock が *Fontaria Holstii* Pocock, 1895 として記載せるものは *Riukiaria* に隷すべき種なるを指摘して居ることからも予等は Attems の説に賛し *Riukiaria* を暫く *Rhysodesmus* と同一視し度いのである。*Rhysodesmus* 随つて *Riukiaria* も本邦に於ける馬陸中の南帯分子(東洋區系種)と看做すべきものであつたが高桑所藏の朝鮮産標品中に *Riukiaria* に入れて宜いがある。4. VIII. 1934 全羅南道莞島で採集されたが恐らく 1 新種を構成するものと考へられる。標品少數なので仔細の検討は他日に譲り茲には *Rhysodesmus* n. sp. の名の下に本屬が琉球のみならず朝鮮よりも獲られたことを豫報する。

Antrokoreana Verhoeff (1938) **タテウネホラヤステ屬**

Mit. Höhlen. Karstforsch., 1938, p. 84

10 *Antrokoreana gracilipes* Verhoeff タテウネホラヤステ (縦畝洞馬陸)

Antrokoreana gracilipes Verhoeff, Mit. Höhlen. Karstforsch., 1938, p. 85, textfigs. 1—10

9. VI. 1918 朝鮮平安南道江東清溪石灰洞で土居寛暢氏採集の標品に基き新屬新種として記載された。原記には Vorkommen: Korea in einer Höhle bei Whitish とあるが之は滑稽な錯誤で、高桑が標品を送附した際標品の色彩をラベルに whitish と添書きしたのを Verhoeff は地名と誤認したものらしい。決して Whitish なる地の近くの洞窟といふ意味ではない。

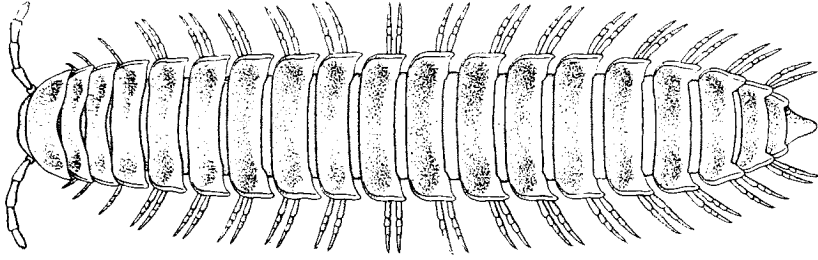
Mongoliulus Pocock (1903) **カウライホタルヤステ屬**

Ann. Mag. Nat. Hist. ser. 7, vol. xii, no. 71, p. 522

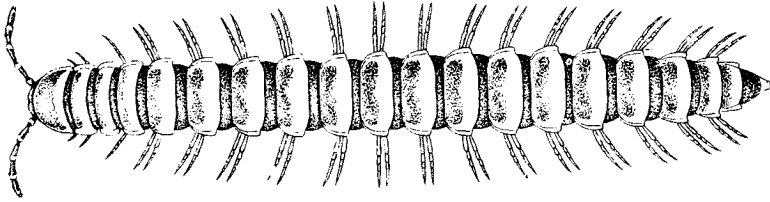
11 *Mongoliulus coreanus* (Pocock) カウライホタルヤステ (高麗螢馬陸)

Paraiulus coreanus Pocock, 1895, Ann. Mag. Nat. Hist. ser. 6, vol. xv, no. 88, p. 365, Pl. XI, figs. 12, 12 a

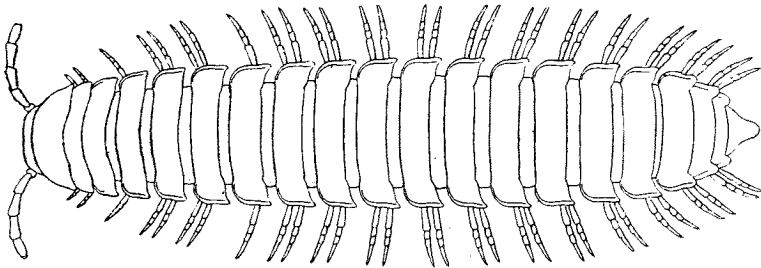
Mongoliulus coreanus, Pocock, 1903, Ann. Mag. Nat. Hist. ser. 7, vol. xii, no. 71, p. 523



ハンタウババヤスデ × $\frac{1}{2}$



シラギアカヤスデ ×4.3



ヤサババヤスデ ×4.7

Mongoliulus koreanus, Attems, 1914, Arch. f. Naturgesch. vol. lxxx,
A, no. 4, p. 13 (誤綴である. p. 286 には *coreanus* と正しくある)
—— Verhoeff, 1932, Diplopoden. Bronus Klass. Ord. Tier-Reich.,
p. 1934

模式産地は “S. E. Corea” (Alfred Carpenter 採 British Museum 藏) で
Carpenter 以後本種を採集した人は無いらしく目下のところ朝鮮獨特の屬種で
ある。予等は本種を検する機会を持たない。

Skleroprotopus Attems (1901) **リュウガヤスデ屬**

Zool. Ergebn. v. Zichy's Reise vol. ii, p. 296

12 *Skleroprotopus hakui* Takakuwa ハクリュウガヤスデ (白龍河馬陸)

Scleroprotopus hakui Takakuwa, 1940, Annot. Zool. Japon. vol. xix,
no. 1, p. 19, textfigs. 1—5

原記に於て *Scleroprotopus* としたのは誤であるから此の機會に訂正する。模
式産地は朝鮮慶尙南道三浪津で 25. X. 1935 白甲鏞氏採集に係る。本屬は支那
に1種を産し他は何れも本邦より知られる。本邦では最初土佐龍河洞産につき
記載されたのでリュウガヤスデ (高桑 1940) と呼ぶことにした。

Ansiulus Takakuwa (1940) **アンシウヤスデ屬**

Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. vol. xvi, pt. 3, p. 118

13 *Ansiulus matumotoi* Takakuwa アンシウヤスデ (安州馬陸)

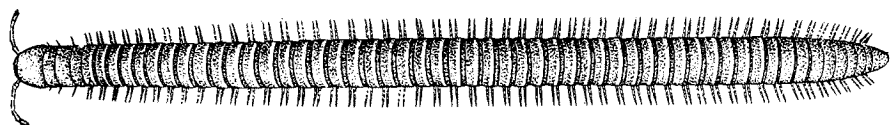
Ansiulus matumotoi Takakuwa, 1940, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc.
vol. xvi, pt. 3, p. 118, textfigs. 1—5

朝鮮平安南道安州で高桑の採集した材料に基づき設けられた新屬新種で目下
のところ朝鮮以外より未知。種名は松本順吉氏 (高桑の恩師) に因む。

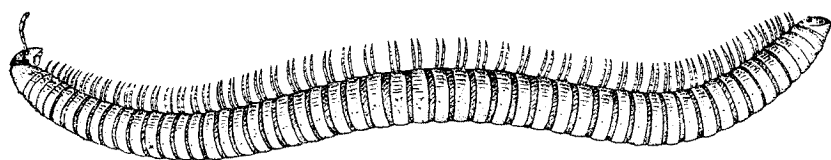
Fusiulus Attems (1909) **フジヤスデ屬**

Ark. f. Zool. vol. v, no. 3, p. 59

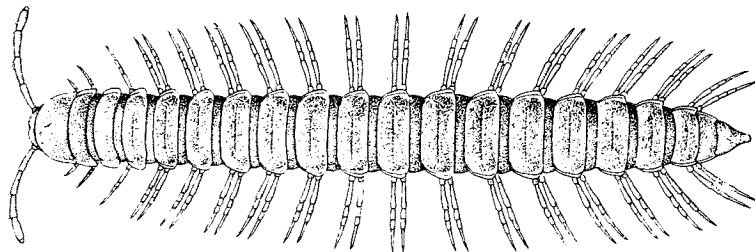
14 *Fusiulus koreanus koreanus* Verhoeff comb. nov. ケイリンフジヤスデ



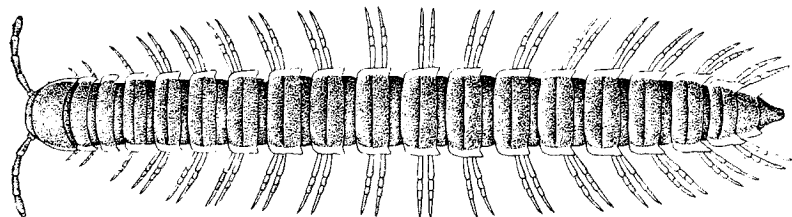
カイリノフジヤスデ ×3.5



ハクリユウガヤスデ ×3.8



マガヒアカヤスデ ×2.5



ヤケヤスデ ×5

(鷄林富士馬陸)

Fusiulus koreanus Verhoeff, 1937, Zool. Anz. vol. cxix, nos. 1/2, p. 38, textfigs. 4—8

模式産地は“Korea, bei Hoko”朝鮮慶尙北道浦項で 15. IX. 1935 白甲鏞氏採集の標品に基づく。当初は朝鮮特産種であつたが後 Verhoeff (1939) により小笠原のものが *Fusiulus koreanus boninensis* なる亜種として記載された。

§ 附 説

多足類には蜈蚣類、馬陸類の他に尙 2 群團がある。即ち少脚類 Pauropoda 及び結閤類 Symphyla である。少脚類は内地から 3 属 3 種既知であるが容易に採集されず未だに珍奇動物を以て遇されて居る。朝鮮では未だ何人も採集して居ない。結閤類は内地の各地に比較的普通のもので少くも 3 属 3 種は生棲するであらう。然るに鮮満地方では珍奇動物に算へねばならぬ現状である。岸田氏が 1936 年夏朝鮮に動物採集旅行を試みられた際各地での綿密な注意にも拘らず半島では 1 回も見かけず、僅かに 8 月 13 日属島たる濟州島安徳面で 1 頭を見つげられたに過ぎぬ。岸田氏 (1933) が満洲國熱河省に苦辛採集せられた折も 1 頭しか獲て居られぬ。或は鮮満地方では結閤類は採集困難なるものかと訝るのである。岸田氏の御厚意で濟州島産の 1 頭は高島が保存して居るがナミコムカデ科 Scutigerellidae に隸するものである。

Hanseniella Bagnall (1913) ナミコムカデ属

Hanseniella (*Hanseniella*) sp. Takashima, 1939, Zool. Mag. Tokyo, vol. I, no. 8, p. 608

本邦産既知馬陸類は先づ確實な属種丈でも 40 属 80 種に達する。而して其等の大多数が日本固有種であり属にしても唯今高桑が鋭意調査しつつあるヒメヤス

* 分類法其のものが妥當ならず一地方に於ける特産属種を簇出させて居る場合もある。

デ上科 Julioidea のものは日本特産と看做さるべき (*Antrokoreana*, *Karteroiulus*, *Kopidoiulus*, *Mongoliulus*, *Ansiulus*, *Fusiulus*, *Japanioiulus*) が壓倒的に多い。之は如何なる理由に據るものか。馬陸相の究明の十分でないこと*が最も想起し易い原因であらう。亦東亞に於ける隣接地方殊に支那に多足類の専攻家無く同地の馬陸相に關する知見は何れも歐米の學者の研鑽に係りそれも判つて居るのは九牛の一毛程度と稱しても必ずしも過言ではない。彼の地の馬陸相の究明十分であれば彼此共通の屬種、近縁種等の存在から動物地理學的考察に二三言は加へ得るであらう。兩地に於ける知見の跛行的なのが斯かる奇異な現象を呈せしめる所以かとも想ふ。或は東亞に於て有尾兩棲類の Hynobiidae が獨自の進化を遂げ殊に日本列島で最も多種に分化し正に本場の觀あるのと同範疇かと推測もするがさう極言するのは少し危險の様である。

半島の動物相は在鮮の専門家は固より内地在住の諸學者不斷の調査により其の形貌の具現は正に日進月歩である。多足類は其等の動物中で最も取り遺されたものゝ一つと稱して宜い。本報文は固より概觀たるを免れないが朝鮮の多足類の輪廓を窺知するに最も便利なる文獻たるべきを信ずる。數次に亘り標品を査定し其の成果を發表して來られた斯界の泰斗 Dr. Karl Wilhelm Verhoeff に深厚の敬意を表し博士の愈々御健勝ならんことを祈る。併せて高島は丘英通博士に日頃の御懇情を、佐藤井岐雄氏に貴重なる文獻借覽の便宜を賜はつたことを拜謝するものである。

(皇紀2300年8月12日)

附 圖 の 辯

馬陸の全形圖は種名判定には餘り役に立たない。殊にヒメヤスデの仲間に於て其の感を深くする。全形圖を羅列するのは予等の氣休めと考へられて宜い。何れも白尾三男畫伯の健筆に成り今回始めて發表するものである。*Koreowia pallida* Verhoeff は標品褪色して本來の色調を寫し得なかつた。